

認知症になっても さすけねえ〜!

～ 令和6年度 伊達市オレンジフェスティバルを開催 ～

☎ 高齢福祉課地域包括ケア推進係 ☎ 575-1125

私たちには、こんなにも頼れる人たちがいる

会場には、医師・薬剤師による健康チェック・相談コーナーや認知症初期集中支援チームによる相談コーナー、認知症地域支援推進員による活動紹介・展示ブースも設置されました。

気軽にできる健康チェックには順番待ちの列もでき、親身になって相談のしてくれる先生たちのおかげで、相談者は安心して会場を後にしました。



認知症サポート医からのメッセージ

認知症は早期の発見が大切ですが、なかなか自身では気が付きにくいものです。周りの人たちが、わずかな変化にも気が付ける環境を築いていくことが重要です。

桑名医院
院長 桑名俊光先生



介護支援専門員からのメッセージ

このイベントを機に認知症への理解を深めていただき、周りの人が見守ってあげたり、たまに声をかけてあげたり。少しでも地域と関わる意識を持っていただければうれしいです。

伊達すりかみ荘
園長 貝沼勝敏さん



認知症サポート医からのメッセージ

認知症についてどこに相談したらよいかわからない人もいます。困ったときには、私たち医師や地域包括支援センターが力になりますよ。

なかのクリニック
医師 中野恵一先生



認知症初期集中支援チームからのメッセージ

認知症に偏見があると相談が遅れてしまいます。認知症は誰でもなる可能性があるんです。だからこそ、「認知症になってもさすけねえ」環境をみんなで作っていきましょう!

保原地域包括支援センター
所長 森美樹さん



ますます明日への希望に満ち溢れました

来場した丹野順子さんと渡辺愉美子さんからは、「映画では自分の境遇に重なるところがあり、当時を思い出して2人で笑ったり、涙してしまうところがありました。とても素晴らしい映画でした。

健康チェックのコーナーでは全ての項目が良好でした。貧血や認知機能の項目も問題なくて安心しました。今日は本当に最高の日になりました」といった感想を聞くことができました。

ちょっとしたことでも **大丈夫**
お気軽に **ご相談** ください!

- 伊達地域包括支援センター ☎ 551-2144
- 梁川地域包括支援センター ☎ 572-4872
- 保原地域包括支援センター ☎ 574-4774
- 霊山・月館地域包括支援センター ☎ 586-1323

認知症にふれ“わがこと”として考える

9月21日④に伊達市ふるさと会館で開催された「伊達市オレンジフェスティバル」。高齢者の5人に1人が認知症になっている現代で、他人事ではなく、「わがこと」として認知症を考えるために開催しました。

当日は700人を超える来場者を迎え、映画や展示、健康チェックコーナーなどを通じて、認知症への理解を深めました。



笑顔と涙、そして安心に包まれた会場

監督である信友直子さんが、遠距離介護をしながら記録したドキュメンタリー映画「ぼけますから、よろしくお願ひします。」が上映されました。上映中の会場からは笑い声や共感する声が聞こえ、終盤には涙する来場者の姿も。

映画鑑賞後、来場者からは「大変でも笑顔が消えない夫婦の姿に感動しました」「自分たちを見ているようで、一緒なんだと安心しました」といった感想を聞くことができました。

「認知症って、そんなに怖いものじゃない」

信友監督による講演会では、映画では映しきれなかったストーリーや認知症との向き合い方が語られ、会場は温かい雰囲気溢れました。

▼信友直子監督からのメッセージ

大好きな母が認知症だと知ったときは、やっぱりすごくつらかったです。でも、認知症になっても母は母で、優しくて冗談が好きな“母らしさ”は無くないんです。だから、認知症になっても、この世の終わりなんてことはありませんよ。

今、認知症介護に直面している人は、自分だけで抱え込まず、いろんな人に助けをもらってください。自分の機嫌をとることも大切です。

誰だって認知症になる可能性はあります。自分に関係ないと思わず、みんなが思い合うことが必要なんだと思います。

